

「子どもの心の育ち」がテーマなんだけど・・・

そもそも「心の育ち」という言葉をどう使っているの？

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が出されたけれど「心の育ち」ってどのようなことなの？

みんなイメージしていることが違うのでは？



目に見えない心をどう見ていくの？

1人ひとつ事例を書いて みんなで語り合いました

「できないかもしれない・・・」と動けなくなってしまう子どもの事例が多いように感じるね。目に見える行為で評価されることが多いのかな。家庭などの背景も含めて考えていくことが大事だね。

小学校の先生と園の先生とが子どもの姿を通して語り合いを重ねていくことで、それぞれが子どもの姿をどう捉え、何を大切に、具体的にどう関わっているのかを知り、感じられるようになってきた。これがどこの園校の間でもできるととてもいいのにな。具体的な連携や引き継ぎのアイデアや方法を例示してはどうか。

「自信をもつ」という言葉が良く出てくるけれど、同じ「自信」でも3歳児と4年生とは違うよね。そこを比較してみてもうどうだろう。

新しいことに消極的だった子どもが「頑張るようになった」けれど、「人に認められたいから嫌なことでもしぶしぶ我慢してやっている」のか、「ちょっと嫌なこともあるけれど、やってみるとそれ以上にすごく楽しくて、世界がぐんと広がった」のかでは大きく違うよね。

3歳児の頃にはこだわりが強く人との関係が持ちにくかった子どもが、5歳児の終わりには他の子どもと共に生活している事例を聞いて、1年生の担任が育ちの過程を知っていると、入学の頃に少し前の姿が見られても、焦らず支援の手立てができるなと感じたよ。

子どもの心に足りていないもの、もう少し動いて欲しいと思う心をしっかりと見極めて、直感的に言葉をかけたり、かかわったりしているね。そこをもっと掘り下げて言語化することで、子どもの心と共に先生の心も見えてくるんじゃないかな。

1年次の気づきと課題をまとめて

2年次へと続きます